



2022年4月14日

各位

会社名 R P A ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役 高橋 知道
 (コード番号: 6572 東証プライム)
 問合せ先 取締役 松井 哲史
 (TEL 03-5157-6388)

連結業績予想と実績との差異及び個別業績の前期実績との差異並びに特別損失計上に関するお知らせ

当社は、2021年10月15日に公表した2022年2月期（2021年3月1日～2022年2月28日）の業績予想と本日発表の実績に差異が発生しましたのでお知らせいたしますとともに、個別実績につきましても前期実績との差異が発生いたしましたのでお知らせいたします。併せて特別損失を計上することといたしましたので、お知らせいたします。

1. 連結業績予想との差異について

(1) 2022年2月期連結業績予想と実績の差異（2021年3月1日～2022年2月28日）

	連結売上高	EBITDA※	連結 営業利益	連結 経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 連結 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	17,000	1,170	400	380	△740	△12.17
今回発表実績 (B)	16,796	1,076	331	276	△1,210	△19.74
増減額 (B-A)	△203	△93	△68	△103	△470	△7.57
増減率 (%)	△1.2	△8.0	△17.2	△27.2	-	-
(参考) 前期実績 (2021年2月期)	11,206	1,346	532	521	21	0.36

(2) 差異の理由

連結売上高につきましては、計画値に対して若干の未達となりました。利益面におきましては、ロボットトランスフォーメーション事業において、アフィリエイト広告市場の取扱シェア首位を目指し、取扱シェアの拡大に向けた販促費投資を優先したことと、RaaS 事業でマーケティング投資を強化したことで、連結営業利益、連結経常利益は従来予想を下回る結果となりました。また、ロボットトランスフォーメーション事業の新規事業として取り組んでいる分野において今後の事業計画を保守的に見直すこととし、のれんの減損損失409百万円を当期において追加で計上することで、親会社株主に帰属する当期純利益については従来予想を下回る結果となりました。

2. 前期個別実績との差異について

(1) 2022年2月期通期個別実績と前期個別実績との差異(2021年3月1日～2022年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A) (2021年2月期)	百万円 1,642	百万円 689	百万円 738	百万円 304	円 銭 5.21
当期実績(B) (2022年2月期)	1,587	655	679	△1,464	△23.88
増減額(B-A)	△55	△34	△58	△1,768	△29.09
増減率(%)	△3.4	△5.0	△7.9	—	—

(2) 差異の理由

当社は当事業年度において連結子会社からの受取配当金が減少した結果、前事業年度の実績値との比較において差異が生じております。当期純利益につきましては、関係会社株式、投資先企業の株式評価損の発生により特別損失を計上したため、前期比で大きく減益となりました。

3. 特別損失の計上及びその内容

上記1(2)に記載のとおり、ロボットトランスフォーメーション事業の新規事業として取り組んでいる分野において、事業の進捗状況を踏まえた今後の見通しの精査を行った結果、今後の事業計画を保守的に見直すこととし、同事業においてのれんの減損損失409百万円を計上することといたしました。ロボットアウトソーシング事業、ロボットトランスフォーメーション事業ともに、事業領域の拡大、新規事業におけるその他取り組みは順調に進んでおり、当該影響が事業推進に及ぼす影響は軽微です。

上記2(2)に記載のとおり、当社が保有する投資有価証券のうち、簿価に比べて実質価額が著しく下落したもののついて投資有価証券評価損591百万円を計上することといたしました。また、当社の関係会社株式の回収可能性を保守的に評価した結果、関係会社株式評価損1,161百万円を計上することといたしました。

以 上